

ノートルダム清心女子大学紀要投稿細則

(目的)

第1 この細則は、ノートルダム清心女子大学紀要編集規程第11条の規定に基づき、紀要投稿者が原稿作成上遵守すべき事項について定めるものとする。

(共通する準則事項)

第2 各編に共通する準則事項は次のとおりとする。

- 1 投稿される論文等の著作権は著者に帰属する。執筆にあたっては、他人の著作権の侵害、名誉毀損、その他の問題を生じないよう十分に配慮することとする。
- 2 本学紀要編集委員会は、原則として紀要に掲載された論文等を、ノートルダム清心女子大学学術機関リポジトリにおいて電子化公開する権利を有するものとする。
- 3 投稿は所定のテンプレートを用いる。邦文の原稿は横書きとし、1編の長さは原則として24,000字以内とする。但し日本語日本文学編は縦書きも可とする。欧文の場合は、原則としてA4版タイプ用紙で40枚・12,000語以内とする。上記の長さには、本文、注、文献一覧及び図表等を含む。
- 4 原稿に、邦文及び欧文の題目と執筆者名を付ける。題目の欧文表記は、主要な名詞・動詞・形容詞の頭文字を大文字とする。

(例) Readings in English Transformational Grammar

執筆者名の欧文表記の様式は、名の頭文字をキャピタル、後をスモール、姓の頭文字をキャピタル、後をスモール・キャピタルにする。執筆者が連名の場合は、著者名を「・」で連ねる。欧文表記の様式は、単著の場合と同様にし、「,」で区切る。

(例) 清心 太郎 ⇒ Taro SEISHIN

川上 太郎・山田 次郎 ⇒ Taro KAWAKAMI, Jiro YAMADA

- 5 原稿には原則として、200語程度の欧文の概要（ダブルスペース25行、欧文原稿にあつては600字程度の邦文の概要）を付けるものとする。
- 6 原稿第1ページ目の最下部に、3語程度のキーワードと、執筆者所属先及び執筆者名の平仮名表記を付ける。執筆者所属先が複数の場合は、「※1」「※2」のように記して区別できるようにする。
- 7 図表には表題を付け、図と表で区別してそれぞれに通し番号を付ける。図表原稿は本文中にサイズと入れる箇所を指定する。なお、図や写真は執筆者の原図がそのまま製版に移せるよう明瞭に作成する。
- 8 原則として、注は後注として、本文中の注見出しに片カッコ付の通し番号を付ける。後注

の書式は下記の通りとする。

1) □□□□□・・・・・・

□□□□□・・・・・・

2) □□□□□・・・・・・

9 原則として、引用文献一覧を原稿末に一括して記載する。その書式は次の通りとする。

1) 文献の配列は、著者姓名のアルファベット順ないし五十音順とする。

2) 文献一覧の記載は、著者姓名、出版年、「論文名」、『記載雑誌名』巻一号：頁数、出版社の順とする。欧文文献の場合も上記に準ずるが、論文名は“ ”で囲み、雑誌名及び書籍名はイタリック体で表記する。

10 その他、印刷上の体裁についての希望があれば、送状のなかで明示する。

11 原稿の送付先は紀要編集委員会（以下「委員会」という。）事務局とする。

12 掲載の場合、委員会として訂正・加筆を求める場合がある。校正は、執筆者に初稿及び再校を依頼する。執筆者校正では、誤植の訂正にとどめ、内容の添削変更を避けるものとする。

（分野ごとの準則事項）

第3 各編の準則事項は次のとおりとする。

1 外国語・外国文学編

1) 書式の細部については、The MLA Style Sheet（邦訳『MLA 英語論文の手引』北星堂発行）を参照する。

2 日本語・日本文学編

当編独自の準則はない。

3 文化学編

1) 出典の注は、番号方式またはハーバード方式によって付ける。番号方式の場合は、注の中に書誌情報を明記する。また、ハーバード方式の場合は、本文中に（著者名、刊行年：該当頁）のように組み入れる。同一文献から何度も引用する場合も、Ibid, 前掲書、同書などとせず、上記の形式を繰り返す。

4 人間生活学・児童学・食品栄養学編

1) 本文の体裁：本文の記載は原則として、例えば緒言、実験方法、結果、考察、要約、文献のような順序に従い、見出しは2行取りで中央にゴシック体で記載する。

実験方法の項のうち試料、分析法、測定器具などの小見出し、及び結果の項のなかの小見出しはゴシック体とし、番号は付けず、本文は追い込みにする。更に細分した見出しが必要な場合には番号（1, 2などとし、A, Bは用いない）を付け、並み字で記載する。要約はその報文の内容を簡潔に表すものでなければならない。

2) 引用文献については、原則として、下記のいずれかの方法による。

① 番号方式の場合は、注の中に書誌情報を明記する。

② ハーバード方式の場合は、本文中に（著者名、刊行年：該当頁）のように組み入

れる。同一文献から何度も引用する場合も、Ibid, 前掲書, 同書などとせず, 上記の形式を繰り返す。

- ③ 本文の関連箇所引用の順に“うわつき”で「1)」のように一連番号を付け、一括して末尾の「文献 (References)」の項に集める。

(例)

(雑誌論文の場合) 著者名：雑誌名, 巻, 最初-最後頁 (発行年)。

- 1) 山田太郎：本誌, 3, 75-78 (1934).
- 2) J. R. Young and W. J. Jones : J. Biol. Chem., 217, 383-390 (1965).

(単行本の場合) 著者名：書名, 第何版, 発行所, 発行地, 発行年, 引用頁。

- 1) 松原喜代松：魚類の形態と探索, 第1版, 石崎書店, 東京, 1955, pp. 201-203.
- 2) S. Smith : in “The Physiology of Fishes” (ed. by M. E. Brown), Vol. 1, Academic Press, New York, 1957, pp. 323-325.
- 3) T. P. Hilditch : The Chemical Constitution of Natural Fate, 3rd. ed., Wiley, New York, 1956, pp. 125-127.

私信 (personal communication)・未発表 (unpublished) や学会講演, 並びにシンポジウム要旨などは引用文献の項には記載しない。必要ならば脚注とする。

- 3) 人名：本文中の人名は姓のみを記し, 名と敬称は省く。欧文つづりのときは頭文字をキャピタル, 後をスモールにする。
- 4) 生物名：邦文原稿の場合は, 標準和名をカタカナで書き, 続けて学名をイタリック体で入れる。欧文原稿の場合は, 生物名の次に学名を入れる。微生物名などはそのまま学名を用いる。

原則として命名者名は省くが, 特に必要のある場合には命名者名をローマ字で入れる (その頭文字をキャピタル, 後をスモールにする)。この場合は命名者名を「L.」のように略記してはならない。また, 属名や種名を最初から略記してはならない。本文中で学名の表示を重複することは避ける。表題は原則として学名を記載しない。

- 5) 化学名：邦文原稿中で化学名をあげるときは, 慣例に従い, 漢字もしくはカタカナで記載する。原語を用いる必要のあるときは, スモールで書く。化学物の略語は国際慣用に従い, 本文または脚注でその旨を注記する。
- 6) 単位及び記号：単位の書き方は下記の凡例に従う。略記するものについては複数でも「s」を付けない。略記しないものには「s」を付ける。その他, 各種の記号を用いるときは明確な説明を付ける。

[凡 例]

- 長 さ：Å, nm, μm, mm, cm, m, km
面 積：cm², m²
容 積：μl, ml, liter (s) あるいはl, kl

質量：ng, μ g, mg, g, kg, ton(s) あるいは t
時間：sec, min, hr
温度： $^{\circ}$ C, K
濃度： μ M, mM, M, N, %あるいは percent, ppm, mg/l, mg/100ml, mg/100 g
絶対量：nmole(s), μ mole(s), nmole(s), mole(s)
熱量：cal, kcal
力：mmHg, atm, dyn, erg(s), bar(s), \times g (重力), S (Svedberg)
電気：V, W, mA, A, Hz
光：lx, lm, cd
放射能： μ Ci, mCi, Ci, dpm, cps, cpm, rad, krad, Mrad, R, kR
回転：rpm, cycle(s), kc, Mc
その他：eq

化学関係の文字は次のように字体を区別する。

イタリック体とするもの：o-, m-, p-, N-, O-, S-, n-, d-,
l-, prim-, sec-, tert-, cis-, trans-
ローマ字とするもの：pH, Rf, C, Cl, SO, Fe, bis-, iso-, hemo-
スモール・キャピタルにするもの：D-, L-, DL-

7) 邦文原稿中の欧文つづりの外来語：人名，地名，ドイツ語の名詞，固有の商品名などを除き，スモールで記載する。同一原稿中で，同一物名について和洋語を混用してはならない。

8) 脚注：脚注は一箇所の場合は「※」，複数箇所の場合は「※1」「※2」「※3」などのように指定し，関連ページの下段に入れ，編末にまとめない。数字で指定してはならない。

(改正)

第4 この細則の改正は，委員会において行うものとする。

附 則

1 この細則は，2010年 5月13日から施行する。

2 この細則の制定に伴い，「ノートルダム清心女子大学紀要投稿規程（2003年4月1日施行）」は廃止する。

附 則

この細則は，2011年 5月 2日から施行する。

附 則

この細則は，2019年 5月11日から施行する。

General Regulations for Submitting Manuscripts for
Notre Dame Seishin University Kiyo

- 1 The length of articles should be no more than 12,000 words (double spaced 25 lines, about 40 A4 pages maximum). And a Japanese synopsis (about 600 letters) should be attached to the article.
- 2 Write your name and affiliation in katakana.
- 3 About 3 key words should be added to the paper.
- 4 The accepted articles will be subject to revision, if necessary. About 3 key words should be added to the paper. As for proof-reading, the contributor is allowed only first and second-proof corrections, in which one must strictly limit proof-reading to typological errors, without changing or adding to what has been written.
- 5 All citations and notes must be grouped together at the end of the work.
- 6 Articles should be sent to the Editorial Office.

* *

The MLA Style Sheet should be used as a guide for style points.

For further information, ask the Editorial Committee of N.D.S.U. .

If you plan to submit an article, please sign your name at the Editorial Office between _____ and _____ .

Articles should be submitted to the Editorial Office by _____ .